

# 書写力向上をめざして

## —基礎・基本とその応用—【第54回】

### 「書写の要素」について ㊦ 〈文字の大きさ(1)〉

山梨大学名誉教授 宮澤 鷺州

今号から、書写の要素の一つである「文字の大きさ」について探り上げます。漢字と漢字、漢字と平仮名、平仮名と平仮名、それぞれの組み合わせについて、大きさにどのような違いがあるか、また、それが何を意味するのかを考えてみましょう。



#### 「文字の大きさ」について

書写の要素である「文字の大きさ」を考えることは、つまり二つ以上の文字を相対化した時に、その大きさにどのような違いがあるか、また文字の大きさを捉えて書くことの意義について考えることだと言えます。

「文字の大きさ」は、書写の要素である「文字の配列・配置」と密接に関連しており、書写の学習

内容として重要です。一文字一文字が正しく整って書かれていても、文字の大きさが不揃いだったり、紙面や書式に対して不適切な大きさだと、見た目が悪いばかりでなく、何より読みにくくなってしまうのです。

「文字の大きさ」のポイントとして、次のような点を挙げる事ができます。

○画数の多い漢字は大きく、画数の少ない漢字は小さくなりやすい。



画数が多い場合は、字形が複雑になるため、画数の少ない漢字より大きくなるのは当然です。さらに左右・上下・内外で組み立てられている複合形などの字では、形が肥大化するのは自明の理と言えます。

次に、画数と同じ漢字をいくつか挙げてみました。これらの字例の場合は、どちらもほぼ同じ大きさで書かれるということがわかります。

左 || 右 (五画)

東 〓 京 (八画)

倉 〓 庫 (十画)

このように、「画数の多少で文字の大きさがすべて決定づけられるわけではない」ということに注意を払う必要があります。

大 ∨ 口 日 ∨ 本

目 ∨ 安 囧 ∨ 式

八 ∨ 円 牛 ∨ 肉

このことは、囧形の持つ外部(空間)に働く影響力によって説明することが出来ます。

次回で示した「口」のように、横画や縦画の中央部では外部への影響力が強く働き、「大」「牛」のように、払いや横画などの先端は外部への影響力が強く働きません。言い換えれば、「口・肉」は外部に強い影響力が働くため、周辺に広い空間が必要となり、一方で、「大・牛」の場合はそれぞれの面の先端部で外部への影響力が少ないため、周辺にそれほど空間を必要としません。そのため、「大口」と書く場合の「大」を大きく、「口」を小さめに書いてそれぞれの大きさの調和を図ることになります。これは、漢字をマス目の中に書く場合も同様で、「口」はマス目に対して小さく書き、「大」はマス目に対して「口」より大きく書くことになります。

(六画) (四画)  
自 ∨ 分

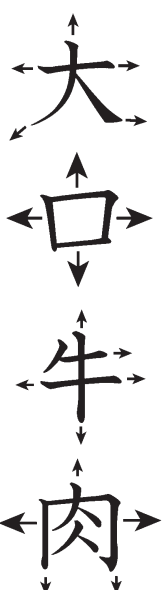
(三画) (七画)  
大 ∨ 臣

(七画) (七画)  
赤 ∨ 貝

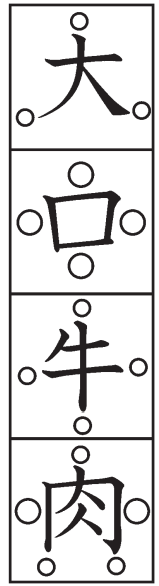
(五画) (十一画)  
主 ∨ 張

(四画) (十画)  
手 ∨ 紙

ここでは、次に挙げる漢字の場合はどうでしょうか。「自分」については、「自」は六画、「分」は四画で、「分」のほうが画数が少ないのですが、「自」より「分」の方が大きくなります。また、「大臣」では、「大」が三画で「臣」は七画ですが、「大」の方が大きく書かれます。「赤貝」では、両者とも七画ですが、「赤」の方が大きく書かれます。



マス目の中に書く場合



外部に強い影響力を持ち、字の周囲に空間を必要とする漢字はあまり多くありません。その字例を学習漢字からピックアップしてみましょう。

〈四方を囲む字例〉

口 四 田 日 自 白 由 曲 回 園 国 囧  
困 固 因 寸 困

〈三方を囲む字例〉

月 用 周 冂 同 間 聞 門 開 問 関 閣  
閉

内 肉 雨 面 南 角 向 商  
山 出 画  
医 区

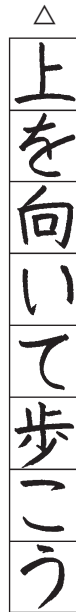
〈二方を囲む字例〉

司 句

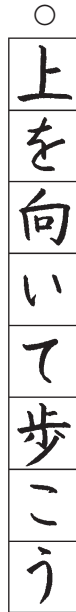
余談ですが、小学校の文字指導や書写指導で、漢字であれ仮名であれマス目にいっばいに書かせる指導や教材を提示することがあります（次の例を参照）。

子どもに、一文字一文字をのびのびと、マス目いっばいに大きく書かせたい、また、出来るだけ大きく書いて点画の書き方を意識させたい気持ちにはよく理解できます。しかし、初期の段階であっても、マス目の大きさに対して、個々の文字が持つ座りのよい固有の形や、相対的な大きさを適切に示すことは、文字の大きさへの感覚・感性を早い時期に養い、「言葉や文・文章を読みやすく書くこと」へとつながり、その後の手紙・はがき・ポスターなどの形式や書式における配置・配列への応用・発展も期待できるのです。したがって、マス目いっばいに書かせる指導は、一文字一文字ずつを学習する場合でも一考を要する指導方法だと思ふのです。

〈マス目いっばいに書かれた教材例〉



〈マス目に対して、文字の大きさを考慮して書かれた教材例〉



○漢字と仮名では、漢字の方が大きくなる。

○平仮名や片仮名は、漢字に比べて画数が少ないため、漢字より小さく書かれることは明らかです。

また、漢字仮名交じり表記で仮名の果たす機能（役割）は、助詞、助動詞、接続詞、漢字の送り仮名などが大半で、文章の主たる内容に直接関わることが少ないといえます。したがって、可読性を考えると、「漢字を目立つように、大きく書いた方がよい」ということになります。次の字例を見てみましょう。

「走る」と書く場合は、漢字を大きく、「る」を小さくしています。「赤い花」「美しい国」「バラの香り」も同様です。それぞれの例を漢字と平仮名を同じような大きさに示した例と比較してみると、明らかに仮名が膨張して見え、言葉の意味すら読み取りにくくなるのが分かります。漢字仮名交じり文の場合、「漢字を大きく、仮名は小さく」書くことが、大原則であると言えるでしょう。

〈漢字を大きく、仮名を小さくして、両者が調和する例〉

走る 走る

赤い花 赤い花

美しい国 美しい国

バラの香り バラの香り

〈漢字と仮名の大きさが同じ、または仮名が大きくなり、両者が調和しない例〉

走る 走る

赤い花 赤い花

美しい国 美しい国

バラの香り バラの香り

○平仮名にも大小がある。

平仮名同士の場合、文字の大きさはどうでしょうか。漢字に比べて画数の少ない平仮名ですが、一画の長さが漢字にはない長さを持つもの（お・ぬ・ね・む・ゆ・れ・わ）があったり、一画の長さが短くしかも概形面積が小さいもの（い・う・く・こ・し・へ・り）があったりするなど、漢字のように平仮名にも相対的大きさの違いがあるようです。

概形面積を基準にした大雑把な分類ですが、平仮名の大きさを大、中、小に分けて次に示してみました。

〈大きくなる平仮名〉概形が正方形に近い平仮名

正方形.. おけたにねはほむ  
ゆれわ

〈中程度の大きさの平仮名〉概形が円・三角形・

台形・ひし形・長方形に近い平仮名

円 .. あさせちどのめ

三角形.. えかてなひふみや  
ん

台形.. ぬるろるゑ

ひし形.. すそ

長方形.. きつまもらよを

〈小さくなる平仮名〉概形が幅の狭い長方形に

近い平仮名

長方形.. いへうくこしり

この分類を手がかりに、大・中・小それぞれの字を組み合わせると次のような言葉を挙げることが出来ます。教材作成や、平仮名の大きさ比べなどのゲームとして採り上げることでもできそうです。

〈大・大〉たね おけ はね

〈大・中〉おとむらゆみ

〈大・小〉けしにくねこ

〈中・大〉あにかたつゆ

〈中・中〉ひもせみなら

〈中・小〉のりかいやり

〈小・大〉こけくれうた

〈小・中〉いとへびいも

〈小・小〉いしうりくり

書写要素の一つである「文字の大きさ」に注意して書くことは簡単ではありませんが、今回述べた解説や字例などを念頭において、強い意識をもって書くことと文字の配列・配置までよくなるのではないかと思います。

次号では、新学習指導要領における「文字の大きさ」がどのように扱われているかをとりあげようと思います。